

V 2021 年度の主要な事業動向

1 2021 年度のトピック

① 愛知県図書館開館 30 周年記念事業

1991 年 4 月 20 日に名古屋城三の丸西南隅の現在地に開館した愛知県図書館は、2021 年 4 月 20 日(火)、開館 30 周年を迎えた。2021 年度は、当館 30 年の歩みを振り返るとともに、県内公共図書館の沿革や活動にも触れることにより今後の各館の活動の振興に資するため、一年を通し開館 30 周年記念事業を実施した。

まず、4 月 9 日(金)から 7 月 7 日(水)まで、1 階エントランス Yottekko で「愛知県図書館開館 30 周年記念展」を開催した。開館当時や建設工事前の写真と同じ場所の現在の写真、建設前に描かれた完成予想図、開館前後の新聞記事などを展示し、過去の館報「あゆち」の配布を行った。この 30 年は当館が県内の公共図書館とともに歩んだ 30 年でもあることから、県内市町村立図書館、公民館図書室等を紹介するコーナーも設け、各館から提供された利用案内や催し物のチラシを設置し配布した。展示期間中に迎えた



愛知県図書館開館 30 周年記念展 (4/9～7/7)

開館 30 周年記念日の 4 月 20 日(火)には、当館職員が作成した記念のしおりを来館者に配布した。11 月には名古屋市栄北エリアの文化施設の連携企画「久屋ぐるっとアート」に参加し、愛知芸術文化センター地下 2 階のビデオルームを会場に、記念展で使用した写真や新聞記事の展示を行った。

この記念展のほか、「大人も読もう！子どもの本」、「話題になった本で振り返る平成の 30 年」、「音楽で振り返る 30 年」、「雑誌で振り返る 30 年」、「ノーベル賞と 30 年記念展示」、「芥川賞・直木賞候補作家たちと過去 30 年の受賞作」など、過去 30 年を振り返る資料展示を行った。「地域資料展示 尾張の村々」では、尾張藩作成の村絵図の原本など、通常は貴重書庫に収めている資料を展示した。

当館資料収集の重点分野である「ものづくり文化」に関連したイベントも行った。学術や技芸の専門家に講演いただく「リベラルアーツカフェ」では、日本の楽器産業創成期を担った鈴木バイオリン製造とヤマハに関する「楽器大国ニッポンができるまで」(講師：愛知県立芸術大学音楽学部井上さつき教授)、白黒写真に色情報を補いカラー化する代表的手法について解説した「甦る過去のイメージ～白黒写真(画像)のカラー化～」(講師：愛知県立大学情報科学部村上和人教授)の 2 回を開催した。また、公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会(JIA 愛知)との共催で建築ワークショップ「くつろぎハウスをつくろう」を開催した。展示「あいちのものづくりー伝統・未来ー」では、「KOUGEIEXPO IN AICHI」及び「ロボカップアジアパシフィック 2021 あいち」の開催も記念し、関係機関と連携実施をした。

10 月 29 日(金)には、記念講演会「公共図書館の過去・現在・未来～いかにして「知の拠点」となり、コロナ禍を乗り越えていくのか～」を開催した。県内公共図書館の原点を改めて確認するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きな変化を迎えつつある公共図書館の今後を考えるため、「近代図書館の先駆け愛知県羽田八幡宮文庫」(講師：豊橋市図書館岩瀬彰利氏)、「愛知県から考える図書館機能の再定置」(講師：慶應義塾大学文学部福島幸宏准教授)の二つの講演と、シンポジウム「コロナ禍の中の公共図書館におけるデジタルリソースを考える」の三部構成とした。参加者は 80 人であった。(「IX 資料 2 展示及び講演会等」参照)



開館 30 周年記念講演会 (10/29)

② 「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの充実

新型コロナウイルス感染症の影響により「新しい生活様式」が求められる中、非来館型サービスの充実を図るため、2022 年 1 月 26 日(水)、県内に在住・在勤・在学の方を対象に、オンラインによる利用登録申請の受付を始めた。これにより、2021 年 1 月に開始した電子書籍閲覧サービスを、来館することなく利用することができるようになった。同時に、当館の利用カードをスマートフォンで表示し使用することができるようになった。

③ 「あいち Book サポーター」制度の開始

2022 年 2 月 4 日(金)に新たな寄附制度として「あいち Book サポーター」を開始した。これは、寄附者の方に、図書館が提案する図書等を購入し寄附していただくという制度である。寄附いただいた方には、館内や愛知県図書館ホームページでのお名前の掲示や寄附いただいた図書にシールを貼付するなど顕彰を行う。利用者の持ち込んだ資料を図書館側が選定して寄贈を受けることは従来行っていたが、今後は「あいち Book サポーター」制度も活用して図書資料の充実を図っていく。



「あいち Book サポーター」制度
紹介ポスター

2 図書等の収集

① 図書

2021 年度は、10,633 冊の図書を受け入れた(購入：和書 5,740 冊、洋書 35 冊、計 5,775 冊。寄贈：和書 4,774 冊、洋書 43 冊、計 4,817 冊。県労働福祉課からの管理替え：10 冊。貸出文庫用図書からの受入：31 冊)。購入による受入冊数は、2009 年度の 21,180 冊をピークとして、図書購入費の減少に比例して漸減しており、2021 年度は 5,775 冊(ピーク時の 27%)だった。厳しい予算状況の中、拠点図書館として県内市町村立図書館のニーズに応え、併せて県立図書館として特徴的なコレクションを構築するために、「資料収集方針」及び「資料選択基準」に基づき、「ものづくり文化」、「地域」及び「健康・医療」の分野を中心に慎重な選書を行い収集した。

2021 年度末現在での図書蔵書冊数は 1,189,001 冊である(2020 年度末：1,178,877 冊+受入：10,633 冊-除籍：509 冊)。

② 新聞・雑誌、規格及び加除法規類

新聞・雑誌 2021 年度当初の継続受入資料は、新聞 83 紙、雑誌 1,780 タイトルで、うち新聞 32 紙、雑誌 1,123 タイトルは寄贈によるものである。『日刊工業新聞』電子版(CD-ROM、2003.4～)も所蔵している。他に『名古屋タイムズ』も電子版(1946.5～2008.10)を所蔵している。2021 年度末には雑誌 13 タイトルについて翌年度への継続を中止した。

規格 2021 年度も内容の更新を継続した規格は、『日本産業規格』(Japanese Industrial Standards：JIS)1 タイトルである。

加除法規類 2021 年度当初、内容の更新を継続した加除法規類は『現行法規総覧』、『愛知県法規集』、『名古屋港管理組合例規集』の 3 タイトルである。

③ その他の紙資料(紙芝居、電話帳、地図(一枚もの))

紙芝居は 2021 年度新規の受入れは 25 点で総数は 3,470 点。全国の電話帳は 2021 年度新規に 923 冊を受け入れた。国土地理院発行の地形図や都市地図など一枚ものの地図は、2021 年度新規に 345 点を受け入れた。

④ 視聴覚(Audio Visual：AV)資料

教養や文化面で資料価値の高い資料を中心に収集しており、2021 年度はDVD89 点、CD158 点を受け入れた。このうち、文化財の記録映像など 125 点が寄贈によるものである。2021 年度末現在での所蔵総数は、DVD始め映像資料 6,263 点、CD始め録音資料 18,165 点である。

⑤ マイクロ資料（マイクロフィルム、マイクロフィッシュ）

2020 年刊行分の『中日スポーツ』について、マイクロフィルム 12 リールを受け入れた。

⑥ 電子資料（CD-ROM等）

2021 年度は受け入れはなかった。2021 年度末現在、『愛知県議会会議録 明治 26 年』（DVD-ROM）始め 1,325 タイトル 1,411 枚を所蔵している（なお、「電子資料」には、図書等の付録であるものは含んでいない）。

⑦ 電子書籍

2021 年度は新たに 143 冊を購入し、2021 年度末現在、5,672 冊の閲覧サービスを提供している。

⑧ 視覚障害者用資料

2021 年度に視覚障害者用に製作した録音図書デジター(Digital Accessible Information System: DAISY アクセシブルな情報システム)の数は 21 タイトルである。購入 7 タイトル、寄贈 16 タイトルを含め 44 タイトル増加し、2021 年度末現在のデジターの所蔵総タイトル数は 1,110 タイトルとなった。この他 2021 年度に、点字図書 8 タイトル、録音図書(カセット) 1 タイトル、マルチメディアデジター 4 タイトルが増加した。

⑨ 商用データベース

レファレンス等の業務及び利用者の閲覧用に、次の 7 種の商用データベースを導入し、情報提供の高度化、迅速化を図っている。

名称	内容
「日経テレコン 21(図書館パック)」	日経 4 紙（『日本経済新聞』朝・夕刊、『日経産業新聞』、『日経流通新聞』、『日経金融新聞』）の記事検索の他、企業情報や人事情報が検索可能 *収録範囲：1975 年～（一部記事は、見出しのみ）
朝日新聞記事データベース「朝日新聞クロスサーチ」	1879 年～1999 年に『朝日新聞』に掲載された新聞記事の紙面イメージ検索と、1985 年以降の『朝日新聞』記事全文検索が可能
「中日新聞・東京新聞記事データベース」	『中日新聞』朝・夕刊(1987 年 4 月～)、『東京新聞』朝・夕刊(1997 年 4 月～)それぞれの最終版の主要記事を蓄積。中部地方各県版、愛知県、三重県、岐阜県下の全地方版（1996 年 1 月～）をカバー
毎日新聞記事データベース「毎索」（毎日新聞社）	1872 年創刊号から現在までの『毎日新聞』に掲載された新聞記事を日付やキーワードで検索可能。また、創刊号から 1999 年までの紙面も収録
読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」	1986 年 9 月から読売新聞に掲載された新聞記事をキーワード、全文及び日付を指定して検索可能
「TKC ローライブラリー」	判例、法令が検索可。1875 年の大審院判例から今日までに公表された判例を、網羅的にフルテキストで収録。また、「現行日本法規」に基づいた法令も収録
「官報情報検索サービス」（官報インターネット版）	官報（本紙、号外、政府調達公告版、資料版、目録）の日付・記事検索が可能。本文も収録 *収録範囲：1947 年 5 月 3 日～当日分まで

「朝日新聞クロスサーチ」、「中日新聞・東京新聞記事データベース」、「毎索」、「ヨミダス歴史館」及び「官報情報検索サービス」は 2 階、「日経テレコン 21」及び「TKC ローライブラリー」は 4 階の専用端末で利用に供している。

3 来館者へのサービスの状況

① 入館者、個人貸出

2021 年度の入館者数は 418,219 人(前年度比 122.6%)、1 日平均の入館者数は 1,483 人(前年度比 115.6%)である。2021 年度末現在の有効登録者数は 38,215 人(2021 年度新規登録者 13,118 人)で、郵便による利用カード発行は、461 人(前年度 818 人)の申込みがあった。また、2022 年 1 月 26 日(水)から開始したオンライン利用登録者数は 453 人であった。

図書等の個人貸出点数は、391,520 冊・点(前年度比 113.4%)、1 日平均は 1,388.4 冊・点(前年度比 107.0%)であり、資料への予約数は 49,950 冊・点(前年度比 89.1%)で、このうち利用者自身によるオンライン予約は 45,524 冊・点(前年度比 90.9%)であった。

② 児童図書室のサービス

2021 年度末現在、開架に図書 34,745 冊、閉架も含めると 88,595 冊、雑誌(児童向け以外含む)は全て開架で 31 タイトルを所蔵している。児童図書の貸出冊数は、89,325 冊(前年度比 129.0%)。

刊行物では、新着図書を紹介する『新しくいった本』(月刊)とおすすめ本を紹介する『児童図書室だより』(季刊)を発行した。

テーマ展示では、「ともだちの本」「スポーツの本」「2020 年をふりかえって～昨年出版されたおすすめのこどもの本～」「安野光雅をしのんで」「クリスマスの本」「千支(とら)の本」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。



再開したおはなし会(1/15)

「おはなし会」については、感染症の状況に注意し開催の可否を判断している。2021 年度は 7 月に再開し、あかちゃん向けを 7 回(参加者 55 人) 幼児・小学生向けを 9 回(参加者 58 人)実施した。

4 月 23 日の子ども読書の日の記念行事としては、2021 年 3 月 19 日(金)から 5 月 12 日(水)まで展示「大人も読もう！子どもの本」を実施した。

③ 視覚障害者資料室のサービス

視覚障害者への対面朗読は、オンラインでも実施しており、利用者数が延べ 126 人(前年度比 237.7%)、対応した朗読者数が延べ 107 人(前年度比 345.2%)、朗読時間数が 218.8 時間(前年度比 225.6%)であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料の貸出が、個人 450 タイトル(前年度比 82.3%)で、他施設から借り入れた資料の提供数は 4,171 タイトル(前年度比 115.0%)であった。自館資料の他施設への貸出は、265 タイトル(前年度比 84.9%)であった。

国立国会図書館のデータ送信事業として 2022 年 3 月までにアップロードした資料は 704 点で、2021 年 4 月から 2022 年 3 月のダウンロード数は、11,492 件であった(2022 年 4 月国立国会図書館からの報告による)。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」は、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、電子図書館の機能もあることから、利用者個人の「サピエ」への直接利用もサポートしている。国立国会図書館とサピエとは連携しており、当館が国立国会図書館へアップしたデータも、サピエからダウンロードすることができる。2021 年度は新たに当館を経由して 2 人が登録し、総数は 75 人となった。

心身障害者へのサービスとして実施している郵送貸出の数は、778 点(同 109.1%)であった。

④ AV 室のサービス

視聴覚資料(CD、DVD など)の貸出は 59,583 点(前年度比 116.8%)。

AV 室展示として、「音楽で振り返る 30 年」「さくらももこ展」「向田邦子×松本清張二人展」「クリスマス展 2021」などテーマを決めて定期的に AV 資料(図書も含む)の展示を行った。

所蔵資料を上映する名画鑑賞会は、通常年間約 30 回実施しているが、感染症拡大防止のため、2020 年 2 月 21 日(金)以降休止している。

⑤ 各コーナーの状況

県立図書館としての役割や県行政を推進する観点から、次のテーマについて集約したコーナーを設置している。

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政機関の刊行物、その他本県に関する資料を収集している。2021 年度末現在、開架に図書 40,361 冊、受入継続雑誌 334 タイトル、閉架も含めると図書 86,131 冊(前年度比 1,804 冊増)、雑誌 1,360 タイトル(前年度比 8 タイトル増)を所蔵している。

また、地域資料について来館者の方に知っていただくため、地域資料の展示をコーナーで実施している。2021 年度には「尾張の村々」、「愛知県事始め(1)愛知県の誕生」という内容での展示を行った。



郷土資料の展示

イ ビジネス情報コーナー

企業経営、起業、資格取得、就職関係の資料を集約したビジネス情報コーナーを 2005 年 3 月に開設、2016 年度に社史コーナーを開設した。2021 年度末現在、図書約 6,500 冊と受入継続雑誌 34 タイトルを配置している。

なお、2021 年度は企画展示「事業承継・起業を応援します！」を日本政策金融公庫他と共催で行い、関連事業としてセミナー「起業のコツを落語で学ぶ！」をオンライン配信した。

ウ ティーンズコーナー

中学生・高校生に読書により親しんでもらうため、ティーンズコーナーを 2005 年 3 月に開設した。2021 年度末現在約 7,500 冊を配置している。

利用者参加型企画「てこぼん」(ティーンズコーナーポイント Get 大作戦!)を継続して開催し、利用者が書いた P O P (お気に入りの本を文章やイラストなどを使って紹介したもの)を活用して他の利用者に P R することにより、さらなる利用促進を図っている。また、2021 年 7 月から 9 月にかけて、来館者の投票により P O P の優秀作を選ぶ「第 10 回てこぼん大賞」を実施した。

エ 多文化サービスコーナー

多文化共生社会への意識づくりと外国人県民の方への日本語教育等を支援するため、2006 年 3 月に中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語で書かれた図書や日本語学習用の図書を備えた多文化サービスコーナーを開設した。2019 年度には、コーナー内に外国人児童のための「絵本コーナー」(2021 年度末現在、569 冊)を設置した。2021 年度末現在、約 5,600 冊を配置しており、文学や日本語学習用の図書を中心として安定した利用が続いている。



多文化サービスコーナー
ポルトガル語の本

オ 東三河コーナー

「愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定」に関わる団体のほか、県東三河総局、東三河広域連合等と連携し、東三河の観光情報を中心に最新パンフレットや地域情報誌(タウン誌)、イベントのチラシなど旬の情報を提供している。2021 年度には企画展示「東三河花の旅」「第 10 回穂つとネット東三河フォトコンテスト入賞作品展」を実施した。

カ 観光情報コーナー

県観光振興課、東三河8市町村を除く46市町村の観光関係当局及び地域の観光協会等と連携し、東三河を除いた愛知県全市町村の観光情報等を提供することを目的として、2018年11月に開設した。主に観光パンフレットや地域情報誌(タウン誌)、イベントのチラシなどを提供している。

⑥ 情報提供サービス

ア レファレンス

レファレンス件数は27,072件(前年度比106.7%)であった。内訳はカウンター等でのレファレンスが18,594件、電話が8,099件、文書(メール、ファックスによるものを含む。)によるものが379件であった。

国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース事業」にも2004年から参加しており、2021年度末現在、421件のレファレンス事例を登録・公開している。

イ 愛知県図書館調べ方ガイド

資料や情報の探し方について、テーマごとに案内する「調べ方ガイド」(A4判、両面)を発行。館内で配布するとともに、当館のホームページでも公開している。2021年度中には「新聞記事の探し方」の内容を改訂した。2021年度末現在22点の「調べ方ガイド」を公開している。

ウ インターネット情報の提供等

2021年度の館内でのインターネット情報の閲覧用端末、国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス及び商用データベース等を利用する専用端末の利用は、延べ11,805人(前年度比126.2%)であった。それぞれの詳細は次のとおり。

㊦ インターネット情報 当館2階で提供している2021年度のインターネット情報の閲覧用端末の利用は、9,651人(前年度比119.6%)であった。

① 国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス

歴史的音源(れきおん) 歴史的音源は1900～1950年頃のSP盤等のデジタル化音源で、インターネット公開している音源約6,000点と、参加図書館に限定して提供される資料約43,000点を2階の専用端末で聴取できる(2012年3月サービス開始)。2021年度の利用は延べ171タイトル(前年度比462.2%)であった。

国立国会図書館デジタルコレクション 国立国会図書館のデジタル化資料のうち、インターネットで一般公開されておらず、絶版等の理由で入手困難な資料、約150万点が2階の専用端末で閲覧・複写できる(2015年5月サービス開始)。2021年度の利用は延べ515人(前年度比175.8%)であった。

㊧ 商用データベース等 当館の2階及び4階の専用端末で提供している商用データベース等の2021年度の利用は1,595人(前年度比163.6%)であった。また、『名古屋タイムズ』及び『日刊工業新聞』電子版の利用は44人(前年度比258.8%)であった。(2-⑨参照)

⑦ Aichi Free Wi-Fi の全館運用開始

無料公衆無線LANサービス「Aichi Free Wi-Fi」を全館的に整備し、8月1日(日)から運用開始した。

⑧ 企画展示・講演会等の実施

利用者と資料をつなぎ、当館の利用を促進するとともに、図書館と資料を知ってもらうため、資料展示や関連講演会等の企画を実施している。2021年度には、1階エントランス Yotteko(ヨッテコ)等を活用し、資料の展示を48回実施した。

講演会では、県芸術劇場、県美術館、県陶磁美術館と連携した「文化芸術に関する連続講座」を4回(うち集合形式2回の参加者43人)、学術や技芸の第一線を一般向けに解説する「リベラルアーツカフェ」を2回(参加者84人)実施した。その他、目の病気・事故などで「見えにくい」方

の読書をサポートする機器や資料を紹介した「読書サポート体験イベント」(参加者 30 人)、「開館 30 周年記念講演会」(参加者 80 人)、「建築ワークショップ」(参加者 20 人)、「博物館×図書館コラボレーション・トーク」(参加者 50 人)を開催した。また、「久屋ぐるっとアート」に参加し、愛知芸術文化センターにおいて「愛知県図書館開館 30 周年記念展」を行った。(詳細「IX 資料 2 展示及び講演会等」参照)



リベラルアーツカフェ
「楽器大国ニッポンができるまで」(7/21)

4 インターネットを利用したサービスの状況

① ホームページのアクセス状況

当館ではホームページを 1996 年 10 月 1 日に開設、ホームページでの蔵書検索を 2001 年 3 月 6 日に開始した。

2021 年度の当館ホームページのトップページへのアクセス数は 959,367 回(前年度比 115.4%)であった。また、愛知県図書館の蔵書検索ページのアクセス数は 2,085,425 回(前年度比 116.4%)であった。トップページのアクセス数に比して高い数値を示していることから、トップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が相当数いると考えられる。携帯サイトの総ページビューは 23,433 ページ(前年度比 143.5%)であった。

② 横断検索「愛蔵くん」の利用状況

横断検索「愛蔵くん」には、愛知県図書館、東海北陸県立図書館(5 館)、県内市町村立図書館(47 館)、公民館図書室(2 館)及び専門図書館(3 館)が参加しており、横断検索のアクセス数は 503,434 回(PC からのアクセスのみ。スマートフォン等携帯端末を除く。)(前年度比 112.5%)であった。

③ 「やさしいにほんご」※を用いた図書館案内ページの公開

外国人県民の方へ向けて「やさしいにほんご」を用いた図書館案内ページを作成し、ホームページ上に公開した。

※やさしいにほんご：外国人にわかりやすいように
配慮した日本語

あいちけん としょかん りよう あんない (やさしい にほんご)
■本(ほん)をかりるとき 本(ほん)をかりるときには、りようカード(カード)がいます。 りようカード(カード)は としょかん で つくることができます。 りようカード(カード)をつくるときは、お金(かね)はいりません。 じぶん の じゅうしょ が かいてある しょうめいしょ または ID(あいでいー)が 本(ほん)をかりるときは、りようカード(カード)と 本(ほん)を 1 かい の か お金(かね)はいりません。

「やさしいにほんご」による利用案内

④ ホームページでのデジタル化資料の提供

当館が所蔵する貴重な地域資料の効率的な利用のため、デジタル化を 2003 年から順次推進している。

2021 年度末現在、「絵図の世界」(758 点)、「絵はがきコレクション」(108 セット)、「貴重和本デジタルライブラリー」(233 タイトル)、「画像コレクション」(15 点)の 4 コレクションをホームページに公開している。

当館では、引き続きデジタル化及び書誌データの整備を進めており、2021 年度は「貴重和本デジタルライブラリー」12 タイトルの整備が完了した。今後も順次タイトルの増加を図っていく。

⑤ ナクソス・ミュージック・ライブラリー

音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」(2014 年 4 月から開始。クラシックを中心として約 200 万曲以上、同時 20 アクセス)の 2021 年度の利用件数は、総計 24,718 件(前年度比 113.1%)であった。

⑥ 電子書籍サービス

2021 年度のアクセス数は 85,461 件(前年度比 287.4%)であった。

5 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度(2012 年度開始)の対象自治体は、東三河地区(豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村)、西三河地区(岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、高浜市、幸田町)、知多地区(半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町)の 21 市町村で、2021 年度の利用は 2,145 冊・点(前年度比 122.6%)であった。

6 館内職員研修の実施

2017 年度から、県政の一端を担う県図書館職員の養成を目的に、毎月第 2 木曜日の休館日を中心に開催している。当館職員が講師を務める他、研修内容に即した講師を招いて実施している。感染症の拡大防止のため、例年行っていた一部研修の市町村立図書館職員への参加の呼びかけは 2020 年度より中止している。2021 年度の実施状況は次のとおり。

内容	実施日	参加者
図書館と博物館の D X	5 月 13 日(木)	47 人
コンプライアンス(グループ毎に実施)	6 月	一人
国立国会図書館レファレンス協同データベース入力説明会	6 月 10 日(木)	17 人
資料保存	6 月 10 日(木)	5 人
	7 日 8 日(木)	5 人
防災訓練	11 月 11 日(木)	80 人
筆談でコミュニケーション	12 月 9 日(木)	47 人
愛知県公立図書館長協議会研修会動画の上映	1 月 13 日(木)	27 人
図書館専門委員会について	2 月 10 日(木)	32 人
マイナンバーカードの図書館利用カードとしての運用について	3 月 10 日(木)	61 人
図書館基本計画の策定について	3 月 15 日(火)	48 人
JAPAN/MARC の導入について	3 月 15 日(火)	51 人

計 11 回 参加者 420 人

7 図書館ボランティア、職場体験・インターンシップ、図書館実習及び見学の受入れ

① 図書館ボランティア

ア 図書館サポーター

2021 年度の「おはなし会サポーター」の登録は 24 名。通常時は毎月第 1 日曜日、第 3 土曜日、第 2・4 水曜日に子ども向けの絵本の読みきかせや紙芝居、わらべうた、ストーリーテリングなどの実演を行っている。感染症拡大防止のため 2020 年 3 月から休止していたが、2021 年 10 月より活動再開。

「資料補修サポーター」には、2 名の登録があり、破損・汚損した図書の補修を行った。

イ 朗読協力員

2021 年度の「朗読協力員」の登録は 34 名で、対面朗読(予約制)や利用者のリクエスト等に応じるための録音図書の作成など、ほぼ毎日活動を行った。また、6～12 月にかけて朗読協力員養成講座(初級)を開催し 11 名が受講、1 月より活動に加わった。

② 職場体験・インターンシップ、図書館実習及び見学の受入れ

中高生等の職場体験・インターンシップの受入れ 2 件 4 人、図書館関係者、学生等の見学・インタビュー 5 件 75 人、合計 7 件 79 人を受け入れた。

8 施設・設備の整備及び更新

開館後 30 年以上が過ぎ、施設・設備の老朽化が進んでいること、また、快適な図書館の利用環境を整備する観点から、2021 年度は、資料支援課事務室天井部雨漏り対策工事(9/14～12/10)、照明制御設備更新工事(8/12～1/12)、高圧進相コンデンサ等更新工事(9/28～3/23)、多機能リレー更新工事(8/25～3/23)、雑用給水ポンプユニット取替修繕(10/12～3/30)、5 階及び 3 階雨漏り対策工事(12/21～3/22)、駐車場出入口拡張工事(2/18～3/23)を実施した。

9 刊行物、広報

① 刊行物

当館の事業報告書である『事業年報』(1992～)の 2021 年度版を 10 月に 500 部発行した。また、当館のサービスや所蔵資料の活用法などを紹介する館報『あゆち』(1991～、創刊当初から 2005 年までの誌名は『年魚市』)第 22 号(特集：愛知が舞台)を 3 月に 4,000 部刊行した。それぞれ冊子版を県内外の公共図書館や関係機関等に配布し、電子版をホームページに掲示している。『あゆち』については館内で来館者にも配布している。



あゆち第 22 号「愛知が舞台」

② 広報

ポスターやチラシを使い企画展示の情報等当館の活動について広報する他、マスメディアへも情報提供を積極的に行っている。2021 年度は、ブロック紙及び全国紙 5 紙(中日、朝日、毎日、読売、日経の各紙)に 42 回、その他地方紙やタウン誌に 27 回、テレビ・ラジオに 7 回、合計 76 回当館の活動等が紹介された。(詳細「IX 資料 3 広報の結果」参照)

また、当館のホームページ(<https://www.aichi-pref-library.jp/>)では、利用案内、企画展示の情報、館内の案内を始め様々な情報を掲載し、随時更新している。2011 年 3 月から開館 20 周年にあわせ Twitter を開始し、2017 年度からは Facebook、メールマガジンの配信を加えた。2020 年 5 月からは YouTube に愛知県図書館チャンネルを開設し、動画配信も開始した。

10 市町村立図書館等への支援・サービスの状況

① 協力貸出の実施

2021 年度の当館から県内・県外の図書館等への協力貸出数は、全体で 16,789 冊・点(前年度比 112.8%)であった。このうち、雑誌の協力貸出(発行から 1 年以上経過した雑誌のバックナンバーを借受け館での館内閲覧に限り 2 週間貸出)冊数は 62 冊(前年度比 101.6%)であった。

② 相互貸借の支援

2021 年度の当館を経由した東海・北陸地区(岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県及び本県)内の相互貸借冊数は、全体で 47,481 冊(前年度比 115.2%)であった。このうち県内図書館同士の相互貸借は 44,708 冊(東海・北陸地区全体の 94.2%)であった。

③ 貸出文庫の実施

図書館未設置町村に図書や紙芝居を貸与する貸出文庫を実施している。図書 500 冊を上限に 1 年間貸与する基本図書と、図書 80 冊、紙芝居 7 組を 3 か月間貸与する流通図書の 2 種類を組み合わせ運用しており、2021 年度は図書館未設置 7 町村のうち 4 町村(南知多町、設楽町、東栄町、豊根村) 6 施設に計 2,080 冊・組を貸与した。

④ 県立学校(図書館)の支援

学校での読書活動及び学習活動支援のため貸出サービスを実施している。2017 年度からは、県立学校に対して地元の市町村立図書館を経由する方式での貸出サービスを開始した。サービス対象校については順次拡大し、2021 年度末には 17 校となった。2021 年度中は、このうち 9 校に対し 1,778 冊を、この方式で貸出した。

⑤ あいちラストワン・プロジェクト

県内で1図書館のみが所蔵する希少資料(ラストワン)を将来にわたって確実に保存し、利用できるよう県内市町村立図書館と協同して取り組んでいるプロジェクト。2013年1月から試行、2014年10月から実施している。県内の図書館を設置する48市町村全て(常滑市含む)が参加しており、2021年度は、市町村立図書館において保存が困難とされた2,763冊の希少図書の県図書館への搬入を許可し、順次整理している。

⑥ 図書館職員・関係者向け研修の実施

県立図書館として、図書館員の資質向上を目的に、当館が単独で、また当館に事務局を置く愛知県公立図書館長協議会及び愛知図書館協会等と連携・協力して、県内の図書館職員・関係者向けに研修を実施している。2021年度に実施した研修については次のとおり。

ア 図書館協力担当者新任研修会

協力貸出業務を新たに担当する職員を対象とした研修で、例年5月から6月にかけての時期に愛知県図書館で開催しているが、2021年度は感染症拡大防止のため、6月に資料配布により実施した。

イ 愛知県公立図書館長協議会の研修

同協議会が実施する研修は、公立図書館員としての知識や技術の習得を目的に、公開講座方式の研修にワークショップなど参加型を組み込んだものを主としている。例年4回の研修(うち1回は愛知図書館協会(児童サービス研修)と共催)を開催しているが、2021年度は、動画配信、オンライン開催を取り入れながら、以下のとおり3回の研修を実施した。また、ヤングアダルト(YA)サービス連絡会による研修は、感染防止対策を徹底して集合研修として実施した。

内容(講師)	開催時期	参加者
第1回:「図書館が「成長する有機体」であり続けるには～安城市図書館情報館(アンフォーレ)の実践から～」(岡田知之氏)	7月～9月 (動画配信)	41人
YAサービス連絡会による研修※:「POP 王直伝!見る者を惹きつけるPOP作りの極意」(内田剛氏) ※愛知県公立図書館長協議会に設置されたヤングアダルト(YA)サービス連絡会による研修	11月5日(金)	40人
第2回:「コロナ情報共有研修:ワークショップ」(高橋正名氏)	12月3日(金)	20人
第3回:「コロナ情報共有研修:ミニシンポジウム」(高橋正名氏、森いづみ氏、是住久美子氏、新海弘之氏)	2月17日(木) (オンライン開催)	23人 (この他、東海北陸地区、長野県に視聴用URLを送付)

計4回 参加者124人

ウ 愛知図書館協会の研修

同協会が実施する研修は、実務への応用を主眼に、講義と演習を組み合わせた連続講座形式のものを主としている。例年実施している児童サービス研修は、受講者数を減らし感染防止対策を徹底して集合研修として実施、レファレンスサービス研修は会場に集合する形式では開催せず、初級と中級に分けて音声配信、資料配付、オンライン講義や課題添削などにより実施、資料保存研修は、感染防止対策を徹底して集合研修として実施した。統計研修は中止した。

内容(講師)	開催時期と形式	参加者
児童サービス研修(連続講座)：児童サービスに必要な知識と技術に関する講義と演習(神谷美恵子氏、岩月ゆり氏、児玉陽子氏、柴田わかな氏、小此木ひとみ氏、道山由美氏、大島由美子氏、市川祐子氏、杉山郁子氏)	6月24日(木) 7月9日(金) 9月10日(金) 10月28日(木)	10人
レファレンスサービス研修(初級)：「レファレンス概論」拡大講座形式の通信研修(松森隆一郎氏)	10月～12月 講義(音声配信・動画配信)と資料配付	177人 (基礎編：107人、実践編：70人)
レファレンスサービス研修(中級)：共通講義と選択科目の演習を組み合わせた通信講座【共通科目：講義】：「レファレンス記録の書き方」(齊藤誠一氏)、【選択科目：演習】：「社会科学のレファレンス」(齊藤誠一氏)、「医療・健康情報のレファレンス」(中島ゆかり氏)、「地域資料のレファレンス」(新川裕美氏)	10月～12月 講義(音声配信・オンライン講義)と資料配付	25人
児童サービス研修(ステップアップ講座)：紙芝居の実演(道山由美氏)	12月1日(水)	10人
資料保存研修：「本のしくみと修理の実践 プロの技をお見せします」(田中稔氏)	1月27日(木)	40人 (この他、録画配信を実施)
読書バリアフリー研修：日本図書館協会 DVD を利用したオンライン研修	2月～3月	57人

計9回 参加者 319人

⑦ 会議の開催、講師の派遣及び図書館訪問

ア 図書館協力担当者会議及び貸出文庫担当者会議の開催

県内市町村立図書館及び公民館図書室等の担当者による連絡、調整及び意見交換のための会議を実施している。例年2月に開催しているが、2020・2021年度は感染症拡大防止のため、電子メールを利用した書面での開催とした。

イ 講師の派遣及び図書館訪問

2021年度は、県内外で実施された図書館や関係団体が主催する研修会等へ、講師や委員として当館から計23件、職員29人(前年度、14件、21人)を派遣した。また、情報交換や意見聴取のために延べ31人(前年度11人)の当館職員が市町村立図書館を訪問した。

VI 県内公共図書館の動向と関係機関・関係団体

1 県内公共図書館の動向

① 図書館の設置

2022年4月1日現在の県内の図書館設置市町村は47(37市9町1村)、未設置市町村は7(常滑市、豊山町、大治町、南知多町、設楽町、東栄町、豊根村)で、図書館設置率は87.0%(47/54市町村)である。2021年9月30日をもって常滑市立図書館(本館)が閉館し、常滑市立図書館条例が改正施行された2022年1月18日より常滑市が未設置市となった。

市町村立図書館の分館のうち北名古屋市西図書館が2021年9月30日に閉館した一方、11月27日には豊橋市まちなか図書館が新たに開館した。また、2021年3月に小牧市中央図書館が、5月には豊川市小坂井図書館が複合施設「こざかい葵風館」内にリニューアルオープンした。

② 図書館の運営

県内で図書館業務に指定管理者制度を導入している公共図書館は全 96 館(分館含)中 26 館で、その内訳は図書館業務全般への導入が 22 館、施設管理のみ導入が 4 館(当館含む)である。また、図書館設置自治体(48)のうち、1 県 1 市(2 館)が首長部局の所管する図書館で、5 市(10 館)では、地方自治法に基づく補助執行により、首長部局が図書館の運営を担当している。

2 関係機関

愛知県教育委員会 社会教育及び学校教育に関する事務事業を所管していることから、公共図書館・学校図書館に関係する次の事業に当館が協力した。

① 新任図書館長研修

新任の公立図書館長を対象に文部科学省等が主催する研修。例年当館は愛知県教育委員会により副会場に指定されており、主会場(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)からのインターネット配信により実施されている。2021 年度は 8 月 31 日(火)～9 月 3 日(金)の 4 日間、各受講者へのインターネットによるライブ配信で実施された。県内の新任図書館長 5 人が各所属でオンラインにより受講した。

② 県立高等学校司書教諭研修会

学校現場で読書活動を担当する司書教諭のための研修会。2021 年 10 月 1 日(金)に、公共図書館のレファレンス事業に関する内容で開催された。当館は、5 階の大会議室を提供し、講師として職員 4 人を派遣した。参加者 50 人。

③ 学校図書館関係職員研修会

県立学校図書館における図書館資料の利用に従事する事務職員、実習教員を対象に実施する研修会。例年、当館大会議室で開催するが、2021 年度は感染症拡大防止のため中止となった。

④ 愛知県子供読書活動推進大会・高校生ビブリオバトル愛知県大会

2021 年度も、愛知県子供読書活動推進大会において、その一環として高校生ビブリオバトル愛知県大会の決勝戦が実施されることとなり、11 月 3 日(水・祝)に当館 5 階の大会議室を会場に開催された。当日は、予選を勝ち抜いた高校生 5 人によるビブリオバトルの決勝戦が行われた後、名古屋外国語大学教授の村上慎一氏による講演会「読解力とは何か」が開催された。当館は、会場を提供する他、図書の展示、当館職員による「愛知県図書館の紹介」を行い大会運営に協力した。参加者 64 人。

当館は、以上のような県教育委員会の学校図書館振興や子供読書活動推進に係る事業に協力する他、高卒資格を取得していない方などのために、学び直しの機会を提供する県教育委員会の「若者・外国人未来応援事業」にも、生涯学習の場と機会を提供するという図書館の立場から、会場を提供するなど協力している。

3 関係団体

① 愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会は、1968 年、県内公立図書館相互の連絡と図書館活動の推進を図ることを目的に設立された。2022 年 4 月 1 日現在 69 館(図書館設置の県市町村及び名古屋市分館)が加入しており、図書館業務に関する研修会、調査等の事業を実施している。同協議会には、ヤングアダルト(Young Adult : YA)サービスに関する情報を広く収集し周知することを目的とした YA サービス連絡会と、公立図書館のネットワークに関する諸問題を検討することを目的とした図書館ネットワーク研究会が設置されている。

2021 年度、YA サービス連絡会では、例年開催している図書館職員向け研修会を感染症拡大防止対策を徹底して集合研修として実施するとともに、YA 向けブックガイド『ティーンのための

Aichi Librarians' Choice A・L・C(あるく)』第9号を作成、公開した。また、図書館ネットワーク研究会では、県内図書館が同一のテーマで展示やイベントを行う「@ (アット) ライブラリー」事業を実施した。2021 年度のテーマとして選定した「園芸作物～自然のめぐみに癒される～」には 23 館が参加し、26 イベントの登録があった。

② 愛知図書館協会

愛知図書館協会は、1950 年に図書館事業の進歩発展を図り、教育と文化の振興に寄与することを目的に設立された。日本図書館協会の団体会員でもある。主な事業は県内図書館職員・関係者向けの研修会の企画・実施である。機関誌として『愛知図書館協会会報』(1950.1～)を発行している。

会員には、施設会員、個人会員及び賛助会員の 3 種がある。2022 年 4 月 1 日現在、施設会員 93 機関、個人会員 70 人及び賛助会員 9 団体が加入している。

③ 東海北陸地区公共図書館協議会

東海北陸地区における公共図書館事業の振興及び相互の協力を図ることを目的としており、東海北陸地区 6 県の県立図書館と 1 政令指定都市(名古屋市)の図書館が加盟している。主な開催事業は、加盟館の館長が参加する会議と、東海北陸地区の公共図書館職員を対象とする公共図書館研究集会である。2021 年度には、館長会議を 10 月 21 日(木)にオンラインで行い、研究集会を 2022 年 1 月 19 日(水)に三重県の担当によりオンライン開催した。

④ 東海地区図書館協議会

愛知、岐阜、三重、静岡県 of 公共図書館と同県に所在する大学図書館の館種を超えた連携・協力を進めるため、2004 年 11 月 1 日に設立された。事務局を名古屋大学附属図書館に置いている。現在の参加館数は 87 館(公共 63 館、大学 24 館)で、当館は公共図書館の理事館 5 館の一つである。

VII 2021 年度アンケート

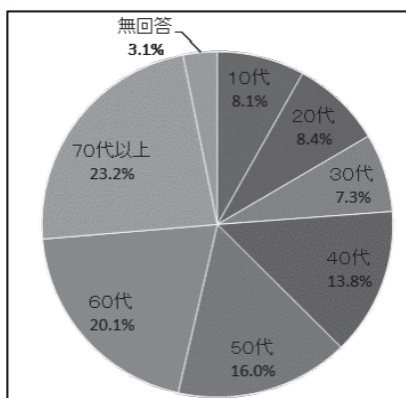
1 電子書籍アンケート

2021 年 1 月からサービス提供を開始した電子書籍について、9 月 17 日(金)から 10 月 1 日(金)まで、電子書籍に関するアンケートを Web 上で実施し 44 件の回答を得た。結果については、ホームページ「県図書館の発行物」(<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>)に掲載している。回答者の年代別では、20 代の割合が最も高く、22.7%である。次いで 40 代・50 代がともに 20.5%、30 代 18.2%と続く。「どの分野を利用したことがあるか」の問いには 39 件の回答があり、「情報科学、IT、パソコン」分野(19 件)が最も多く、次いで「歴史・地理・旅行」分野(17 件)、「法律、経済、ビジネス」分野(13 件)、「芸術・美術・スポーツ・趣味」分野(13 件)の利用が多い結果となり、重点収集分野として選定した図書が活用されていることがわかった。

2 来館者アンケート

当館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、2005 年度から来館者を対象にアンケートを行っており、2021 年度は 2022 年 2 月 25 日(金)と 26 日(土)に実施した。2 日間で 1,000 枚のアンケート用紙を中学生以上の来館者に交付し、668 枚回収した。結果については、ホームページ「県図書館の発行物」(<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>)に掲載している。来館者、来館頻度、来館目的及びサービスの重要度と満足度の概要は、次のとおりである。

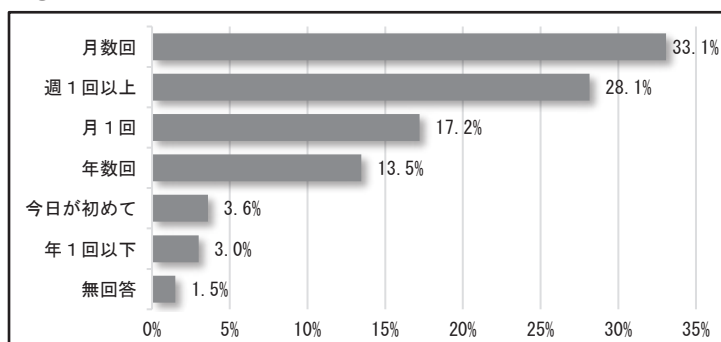
① 来館者



来館者 年代別

来館者の年代別では、70代以上の割合が最も高く、23.2%である。次いで60代20.1%、50代16.0%、40代13.8%と続き、60代以上が来館者の約4割を占める。最も少なかった年代は30代で7.3%であった。職業別では、「お勤めの方」の割合が最も高く42.5%、次いで「自営業」が8.2%であった。ただし「その他」にあたる回答が33.5%となっている。学生（中学生・高校生・大学生・大学院生）の割合は11.4%で、2020年度に比べ3.1ポイント増加した。

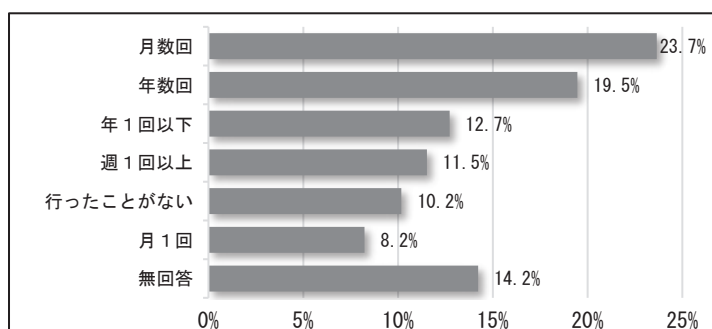
② 利用頻度



県図書館の利用頻度

県図書館の利用頻度は、「月数回」の割合が33.1%で最も多く、次いで「週1回以上」が28.1%「月1回」が17.2%「年数回」が13.5%と続く。月1回以上利用する人が全体の約8割であった。

一方、地元の図書館の利用頻度は、「月数回」が23.7%で最も多く、次いで「年数回」が19.5%、「年1回以下」が12.7%であった。



地元の図書館の利用頻度

また、県図書館の利用頻度別に地元図書館の利用頻度を見ると、月1回以上県図書館を利用している人の4割以上が、月1回以上地元の図書館を利用している。県図書館と地元の図書館を使い分けている様子がうかがえる。

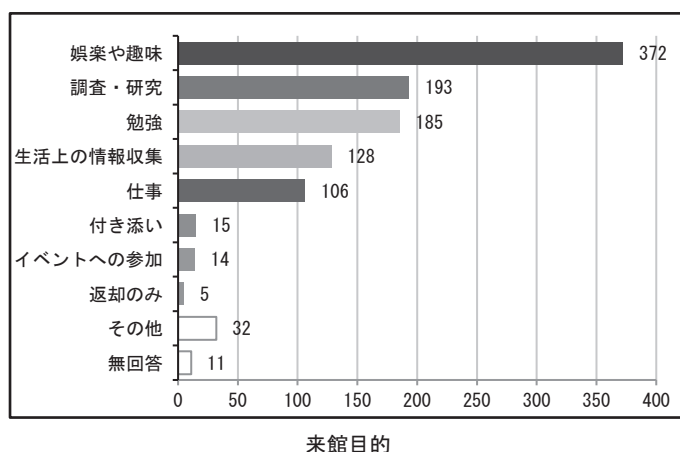
なお、地元の図書館ではなく県図書館を利用する理由、地元の図書館と併用する理由を見ると、「蔵書が多い、本の種類が豊富」、「職場や自宅に近い、交通の便が良い」、「専門書、地域資料、新聞・雑誌が充実している」という意見が多い。また、「閲覧席が多い」、「県図書館にしかない資料を利用するため」、「調査研究に適している」などの意見もあり、当館の特徴が活かされていることが分かる。

「地元の図書館ではなく県図書館を利用する理由」または「地元の図書館と県図書館を併用する理由」（自由記述）

記述内容	回答数	記入人数
蔵書が多い、本の種類が豊富	100	397※
職場や自宅に近い、交通の便が良い	97	
専門書、地域資料、新聞・雑誌が充実している	62	
地元の図書館と使い分けている	60	
閲覧席が多い	51	
広い、環境が良い、落ち着いて利用できる	33	
CD、DVDなど視聴覚資料が豊富	14	
貸出期間が長い	10	
県図書館にしかない資料を利用するため	10	
調査研究に適している	5	
イベントや展示のため	3	
運動のため、健康のため	2	
その他	31	

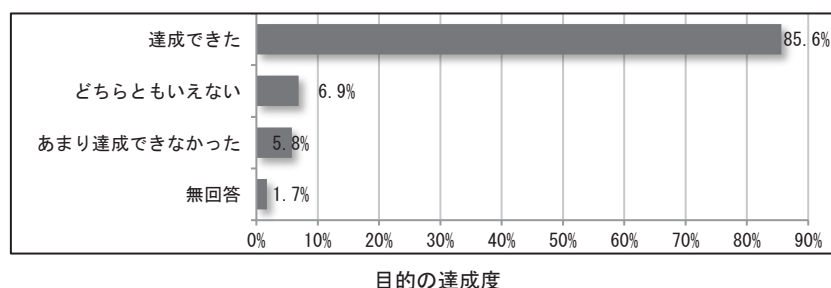
※ひとつの記述の中に、1～3件の内容が含まれており、内容ごとに回答数集計したため、回答数と記入人数は一致しない。

③ 来館目的（複数回答可）



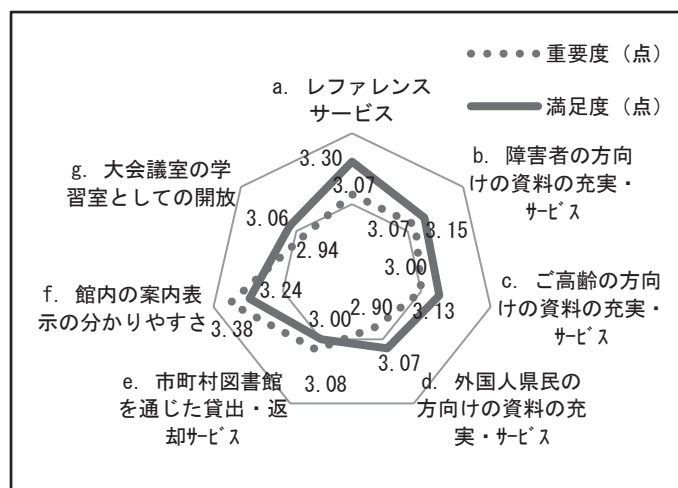
来館者全体でみると「娯楽や趣味」が第1位で全体（1061件）の35.1%（372件）を占める。次いで「調査・研究」「勉強」、「生活上の情報収集」と続く。

年代別でみた来館目的の特徴的な回答は、20代以下は「勉強」の割合が高く、30代以上は「娯楽や趣味」が第1位となっている。「娯楽や趣味」、「勉強」、「調査・研究」がいずれの年代でも上位に位置しており、県図書館が来館者の課題解決の場として機能していることがうかがえる。



なお、「来館の目的を達成されましたか」という項目については、85.6%が「達成できた」と回答している。

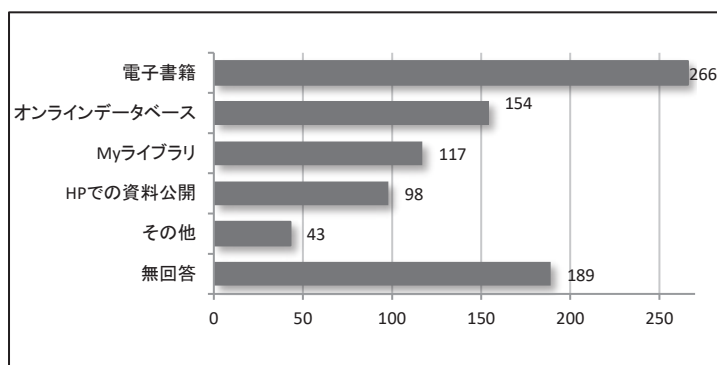
④ サービスの重要度と満足度 *4段階評価(中心値は2.5)



サービスの重要度と満足度

重要度が最も高かったのは「館内の案内表示の分かりやすさ」で3.38点、満足度は3.24点で、さらに改善していく余地がある。一方、「レファレンスサービス」は、重要度3.07点に対して満足度が3.30点で、重要度に比して満足度が高い結果となった。

⑤ 図書館の電子化・DX推進についての要望(〇は2つまで)



図書館の電子化・DX化についての要望

サービス拡大・拡充について、要望が最も多かったのは「電子書籍」で全体(867件)の30.7%(266件)を占める。次が新聞などの「オンラインデータベース」で17.8%(154件)である。Myライブラリ13.5%(117件)、HP上での資料公開11.3%(98件)と続く。